

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2023/03/20 ～2023/05/05)

この報告書を通して今後留学を考えてる方、特に同大学やマレーシア、アジア地域への留学を考えている方などに少しでも役に立つ情報を発信していけたらと思います。

1. 勉学の状況

この報告書を書いているのは5月中旬ごろなので留学開始から1か月ほどが経過したところです。今回は1, サラワク大学と所属している学部について

2, 自分の履修している授業について

3, 渡航が1か月ほど遅れたこと などについて書いていきたいと思います。

1, まず私が現在留学しているサラワク大学 (University Malaysia Sarawak:通称 UNIMAS) は東マレーシアのボルネオ島サラワク州の州都クチン近くに位置するマレーシアの国公立大学です。10の学部、50以上の学科から構成され学生の人数は2万人、敷地もかなり大規模な大学となっておりアジア大学ランキングでもトップ200に入るなどマレーシアの中でも優秀な大学といえます。私が所属するのは Faculty of Economics and Business で現地の学生は FEB と呼んでいます。その FEB には Accounting, Service Economics, Business Economics, Corporate management などのプログラムがあり、私が所属しているのは International Economics という学科で将来は貿易や商社関連など国際的に仕事をしたいという学生が多くいるように感じます。

2, 今期は4つの授業を履修しており、留学生という特権?で特に学年を指定することなく偶然なのですが1～3年生までの全学年の授業を取ることができ、幅広い範囲の授業に参加することができています。FEB は日本の4年制大学と異なって3年制となっており、一つあたりの授業も3時間なので1日の授業が一つだけだとしてもかなり充実感のあるものとなっています。

1, Regional Economics

この授業は基本的に教授とのディスカッション形式のような形で授業が進んでいきます。科目名からも想像できる通り特定の地域間や地域内での経済に注目し、マレーシアのある1つの地域をピックアップし実際の30年ほどのデータを使って産業関連分析やシフトシェア分析(地域の産業構造による変化による雇用変化の分析)、LQ分析(地域におけるある産業の雇用や生産額が全国と比べてどれくらい高いかを表す指標)などを行い、国家全体への経済的な貢献度を測ろうというものです。授業では分析手法の紹介のほか経済的な問題点などを教授が問いかけ生徒との意見を交換していきます。課題が2つあり一つはRegional Economicsに関する論文を読んで要約するもの、2つ目は授業で学習した分析手法を用いて実際のデータを分析し考察するというものでした。

2, Economic growth and development

この授業はプレゼンテーションやディスカッションもありますが基本的に教授のお話を聞く授業です。発展途上国と先進国について何が要因で差ができたのか、経済成長や経済発展のためには何が必要なのか理論的な話だけでなく特定の国の経済政策などを取り上げそれが実際に機能したのかなどの実践に基づいた内容を学んでいく授業になっています。グループプロジェクトがあり私のグループは気候変動が経済活動に及ぼす影響をテーマにして進めています。

3, Public Finance

この授業は簡単に言えば財政学です。千葉大学の法政経学部にも財政学という科目があると思うのですが内容も非常に似ており、公共財やパレート効率性など経済学部生なら何度も目にしてきた内容を学習していきます。この授業に限らずどの授業にも共通するのが課題が個人ではなくグループワークであるという特徴です。お互い助け合

って進めていける反面、役割分担など責任の所在もしっかりしてるので好みはかなり分かれるかもしれません。ちなみに自分の所属するグループは「COVID-19 ワクチン接種プログラムと正の外部性」をテーマにしプロジェクトを進めています。

4, Business Communication

最後に紹介するこの授業ではビジネスにおいてクライアントに対する効果的なプレゼンテーションや交渉、キャリア形成などについて学習しています。授業自体は難しくなく、教科書に沿って学習というような形ではなく実際に自分たちでプレゼン資料の作成から実際のプレゼンの実践を試みたり、エレベーターピッチ（1分ほどのアドリブプレゼン）を行って改善点を探していくというようなものです。かなりアットホームな雰囲気です。休日には先生が自宅にみんなを招待してくれたようなこともありました。

- 3, 本来は UNIMAS での学期開始の 3 月 20 日の一週間前を目安に渡航をする予定だったのですがビザの手配が遅れ約一か月遅れの 4 月 7 日の夜にマレーシアに入学しました。そのため数回の授業はオンラインで参加したのですが留学が始まっているという実感がわきづらくモチベーションを保つのに少し苦労したのと、渡航前からビザなどでうまくいかず渡航してから大丈夫なのだろうかという不安も少なからずありました。ただこのビザの件に関して後々分かったのは、ほかの留学生もビザの手配がうまくいかず予定していた渡航よりも平均的に 1 か月～2 か月ほど遅れて渡航しているということです。ビザの件に限らずマレーシアの方はのんびりとしていて日本人の視点では考えづらいことも起こりますがそれも経験だし、逆に遅れたのが 1 か月だけで幸運だったのかななんて思いながら過ごしています。

2. 生活の状況

ここでは勉強面から少し離れて私生活の部分について書きたいと思います。マレーシア到着後のことに限らず留学前の準備などについても書きたいと思っていますので少し長くなるかもしれませんがご了承ください。

・留学前

個人的な話になりますが実はマレーシアに来るのは初めてではありません。幼少期に 6 年ほどクアラルンプール（マレーシアの首都）に住んでいたこともあり、自分にとって小さい頃の思い出などがたくさん詰まった場所で、かなり馴染みのある国でした。東南アジアには魅力的な国がたくさんありますがその中でも英語を公用語として採用していて物価も比較的安いマレーシアを留学先として選択しました。また UNIMAS は経済学部だけみればマレーシア国内トップレベルでもあり経済を学ぶ学生として視点を広げいろいろな考え方に触れたいと思ったのも理由です。留学をしたいという漠然とした思いは持っていましたが、本格的に準備を始めたのは 2022 年の 2 月頃でした。2023 年の春期派遣に応募するには同年 5 月ごろの応募締め切りまでに一定水準以上の IELTS のスコアを取得する必要があります。無事に応募書類を提出し面接選考を経て選考通過のメールが届いたのは 7 月下旬ごろだったと思いますが今でもその時の感情を覚えています。11 月ごろまでに千葉大での成績証明書等の書類をそろえて UNIMAS に出願という流れでした。ここまではそれなりに順調だったのですが待てども UNIMAS 側から VISA の案内メールと入学許可証が届かず焦りを覚え始めていました。国にもよりますが一定期間（マレーシアの場合は 90 日）以上留学する場合の学生ビザの取得には申請から審査、取得までに一般的に 3～5 か月かかるといわれておりこの時点でもかなりギリギリだったことをご理解いただけたと思います。UNIMAS 側から VISA などのオンラインミーティングの案内が来たのはまだまだ正月気分が 1 月 3 日でした。そこで VISA の申請前に先方から指定された健康診断やほかの書類を提出しなければいけないことを告げられます。この段階で自分が

一番苦戦したのは健康診断の項目です。指定された検査項目には大麻や覚せい剤などの薬物反応検査、マラリア原虫の項目などが含まれており1度に対応してもらえる医療機関が少なく多くの機関に問い合わせた結果、新宿にある国立国際医療研究センターというところでもなく大きな病院で対応してもらいました。必要な書類がすべてそろったのが1月下旬で学期開始の2か月前を切っていました。結論から言えばこの短期間ですべての書類をそろえ提出するには無理があり不可能でした（文句ではないです、留学を考えてる方参考にしてください（笑））。結局ビザの承認が下りたのは3月24日で渡航は4月7日でした。この2週間の間にもパスポートに学生ビザを反映してもらうために2回ほど大使館に行かなければならず予約が必要なのですがなかなか取れず渡航前からうまくいかないことだらけでした。留学にはビザの問題が付きまといますが書類の提出などやるべきことをしっかりやってあるなら待つしかありません。できることといえば何度も何度も催促メールを送ってみることで、実際これで優先してもらえることも多いです。また留学生課の職員の方々には留学前からこの件についてもかなり親切にサポートしていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

・渡航後

ここからは渡航後の生活について書いていきます。マレーシアに限らず多くの東南アジアの国に共通して言えることですが当然ながら日本ほど公共交通機関や公共の施設は充実していません。実際この地域にも電車は普及しておらず買い物や遊びに行くときは Grab という配車アプリを使うか、友達が車を出してくれます。また日本の大学と違っていいなど感じる部分はほとんどの学生が大学内の寮に住んでいるためカフェも夜中（一部は24時間）まで営業しており夜遅くまで課題のミーティングをしたりUNOをしたり、大学内の湖の湖畔でただだと友達と話したり、気ままに過ごせることです。普段、授業のある日は友達と一緒に授業を受けた後そのままご飯を食べに行ったり公共スペースで雑談をしたりして過ごすことが多く土日などの休日は少し遠出をして観光してみたり映画などを観に行ったり過ごしています。特に月曜日は授業が2つあるので本当にあっという間に1日が過ぎます。また、最近はマレー語の勉強も独学ですがしています。基本的にどこに行っても英語でのコミュニケーションは取れますが、せっかくマレーシアに来たならお店での注文や簡単な会話くらいはできるようになりたいなと思いローカルの友達などにフレーズなども教わりながら勉強しています。今回の報告期間で一番印象的だったのは Hari raya puasa を経験できたことです。これはイスラム教の1か月ほどの断食明けのお祭りのようなもので幸運にもムスリムの友人がオープンハウスに招いてくれました。オープンハウスでは伝統料理を提供してもらえたりみんなで踊ったりなどなかなか経験することのできない貴重な機会でした。書きたいことはたくさんありますが今回はこれくらいで終わりにしておきます。写真もいくつか載せるのでご興味があればご覧ください。

読んでいただきありがとうございました。



↑街のシンボルにもなってるサラワク州の州議会場です。夜はライトアップされていてサンパン船に乗って船上から見ることもできます。



↑マレーシアの伝統料理のナシレマです。ピリ辛のソースをつけて食べます。



サラワク州名物のラクサという食べ物です。香辛料の効いたココナッツ風味のカレースープにライスヌードルが入ったマレーシアやシンガポールの定番麺料理です。州ごとに特徴がありますがサラワク州のものは他に比べてクセのあるスープと細麺が特徴です。

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2023/05/06 ～2023/06/30)

1. 勉学の状況

早いもので授業は後半戦に突入しました。5月はちょうど学期の中間月にあたり7日から14日まで一週間ほどのミッドタームブレイクがありましたがそれ以降はほぼ毎日、授業と課題などに追われる日々を過ごしています。1つあたりの授業に対して課題がそれぞれ2～3つと多くはないのですがすべてグループワークであり1つ1つの課題が重いので授業外で何度もグループミーティングを行いながら進めていました。Regional Economicsの授業では6月後半に課題に対してのプレゼンテーションもありそれに対しての準備も大変でした。この課題では授業内で学習した産業関連分析やシフトシェア分析の手法を使ってある1つの地域の経済活動を分析しそこから考察できることや政策提言をプレゼンするというものでした。この課題に限らずほかの授業でもグループメンバーなどに助けられながらなんとかすべての課題を終えることができました。特にプレゼンテーションの場面では、政策提言の部分を担当することになり初めての英語でのプレゼンに少なからず不安はありましたが友達が自信をもってと言ってくれたことやローカルの友達も少し緊張しているのを見ると少し安心して本番には落ち着いて臨むことができました。Public Financeの授業では数回ほど授業内容についての確認テストのようなものがありましたが、範囲が定まってお事前知らされていたので全く問題なくパスすることができました。

6月は多くの大学イベントに参加したことで(詳しくは次のパートで書きます。)、私生活と授業の予習復習、課題の両立に苦戦した時期もありましたがすべての授業を無事に終えることができ安心しています。というのもUNIMASは少し独特で、3/20～6/30を授業期間と定めていて7月の前半はRevision weekというテスト勉強週間のようなものが設置されており私の学部では7/17～7/26にかけて試験が行われるという形です。なので授業で友達に会うことはないと考ええると少し寂しいですが、最終試験に向けてしっかり準備していきたいと思います。

2. 生活の状況

食事に関しては1食RM10～RM40(300円～1200円ほど)の範囲で基本的に収まっており大学内にいくつもカフェや学食があるので普段は友達とそこに行っています。ありがたいことに休日はほぼ毎回友達が遊びに誘ってくれるので映画やランチに行ったり、ビーチで遊んだり、スポーツをしたりなどいろいろなことをしながら過ごすことができます。5月のセメスターブレイクの期間には3泊4日でシンガポール旅行、6月中旬には2泊3日でマレーシアの首都クアラルンプールに行くこともでき、充実した日々を送ることができます。

今回は私が最近参加した大学のイベントについて少し書いていきたいと思います。まず、5月の下旬に学部内での学科対抗スポーツイベントがありました。私はフットサルの部門で参加し幸いにもメダルを獲ることができ、形に残る思い出が一つ増えてよかったです。本来であれば6月の下旬に学部対抗の大会がありチームメイトとも練習もして参加する予定だったのですが大会前日になぜか中止の連絡。理由はわかりませんが年に一回のイベントなので周りの友達はかなり残念そうでした。6月の上旬にはMET GALAという私が所属する学部のオフィシャルパーティーがありました。主催者の友達にいきなりステージに連れていかれてみんなと「恋するフォーチュンクッキー」を踊ることになるプチハプニング?もありましたがこのパーティーを通して友達ともより親密に慣れた気がしてとても楽しかったです。その1週間後にはEMPIRE (Enhancing Competencies Of Youth In International Stage) というイベントにも参加することができました。このイベントは大学生世代の国際交流を目的にマレーシア・インドネシア間で行われており今回はインドネ

シアのタンジュンプラ大学（UNTAN）の経済学部の生徒がマレーシア側に来て AI の普及による今後の変化について話し合うセッションや、一緒に街の中心部に出かけたりなどして親交を深めました。このイベントにおいてはイベント開始前から企画・プロジェクトチームの一員として活動することができ、楽しむだけでなく予算策定や交通の手配などもすべて学生主導で行ったので大変さもありいろいろなことが経験できました。プロジェクトチームに参加しないかと誘ってくれた友達には感謝です。今年の 11 月にはこちら側（UNIMAS）の生徒が今度はインドネシア側に 1 週間ほど滞在し同じような交流イベントがあるようですが、今学期で私の派遣期間は終わりなので参加できないのが残念です。

・ギャラリー



シンガポールの夜景です。右の写真はマリーナベイサンズの屋上デッキから撮影したものです。夕日と夜景を同時に見ることができる 6 時半以降がおすすめです！！



クアラルンプールのシンボルにもなっているツインタワーです。高さは 451.9M で商業施設やオフィスなどが入っています。右は行政地区の putrajaya という地区に行ったときに撮影したものです。中心が国旗で 13 の州の州旗が周りを囲んでいます。

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2023/07/01 ～2023/08/10)

1. 勉学の状況

7月は全部で4つある授業のうちの3つの授業の最終試験が控えていました。Economic growth and development は20問のクイズが3題あったので計60問のテストと1万字ほどのレポートで総合評価されるという形式でした。内容はそれほど難しくなく授業の資料を読んでおけばパスできるような内容でした。Public Finance の最終試験は3時間で記述の問題が8問出題されました。内容としては Edge worth box を書いてパレート効率性を説明するもの、Pigouvian Tax, subsidy に関する問題など幸いにも自分が2年生の時に学習した部分と重なる部分が多かったので自信を持って臨むことができました。最後の Regional Economics の試験が一番厳しかったかもしれません。というのも400字ほどの記述問題が5問と逆行列を含んだ計算問題が4問出題され、ローカルの生徒でさえ3時間で全部終わらせることができた人は少ない問題でした。テスト期間中の過ごし方についても書きます。最終試験のあった3つの授業すべての参考書が300ページを超える内容で最初は全部カバーしようと考えていたのですが結局最低限授業で触れた部分を学習することにしました。ただ regional economics のテストでは授業では触れていなくても参考書に載っている内容が出題されたのもう少し頑張ってもよかったのかなと少し後悔しています。もちろん3週間あるうちのすべてを勉強に費やしたわけではないですし、たまには友達と気分転換と一緒に勉強したり勉強のことを忘れて1日中遊ぶこともありました。なかにはずっと勉強してる友達もいてテストでもいい結果を当然のようにとってくる生徒もいますが、人のことはあまり気にせず自分の中でいいバランス具合を見つけて頑張れる範囲で頑張っていました。

2. 生活の状況

今月は最終月ということもあり自然保護区に出かけてオラウータンに会いに行ったり、ビーチでサンセットを観たり、クアラルンプールに移動してからはバトゥ洞窟というヒンドゥー教の聖地に行ったりいろいろなところに出かけました。今回は最終月報告書となるのでマレーシア留学のいいところ悪いところも含めて総括のような形でまとめていきたいと思います。まずマレーシアの特徴として民族の多様性というものが挙げられます。マレーシアの人口は5割がマレー系マレーシア人、3割がマレーシアンチャイニーズ、1割がインド系、もう1割が少数民族から構成されています。この一割の民族というのは今回私が留学したサラワク州に住むビダユ族、イバン族などのほかにウル族、メラナウ族などが含まれます。どの民族も昔からボルネオの大自然とともに独自の文化を築き、現在も絶えることなくボルネオ各地で生活しています。毎年6月には Gawai というボルネオ独自の収穫祭があり留学中にもイバン族の友人のロングハウスやビダユ族のイベントに参加することができて本当に貴重な経験になりました。上述の通りマレーシアは多くの民族から構成されており1年の中でも様々な民族、宗教のイベントを体感することができます。また学生生活の面で言えば、たまたま私の周りだけかもしれませんが多くの友達は将来こうなりたい、将来やりたいことなど明確なビジョンをもってすごく向上心や熱さを感じましたし、自分自身も刺激されて自分が何をやりたいのかなど考え直すきっかけになりました。また、多様性という話にもつながってくるのですがマレーシアはマレー語、英語、中国語を公用語として採用しておりインド系の学校などではタミル語なども使用されています。自分自身、英語以外のマレー語や中国語などには自信がなかったためローカルの友達同士でマレー語などを話していると疎外感を感じてしまう部分も少なからずありましたが逆に言えば一つの国で複数の言語を学ぶ機会があるため良いところとしても捉えることができると思います。自分の所属していた学部には中国やバングラデシュ、タイ、ブルネイなど様々な

国から留学生が来ていましたが日本人は自分たった 1 人で少なからず不安はありました。でもそんな不安もマレーシアの人々のやさしさに触れてすぐに消えてしまいました。授業の初日から声をかけてくれたり大学で見かけたら声をかけてくれたり、休みの日には遊びに誘ってくれたり、中には初期の授業で自分につきっきりでサポートしてくれた友達もいました。友達として当然のことをしているだけだよと言ってくれましたが、そんな当たり前のことが自分にとっては本当にありがたかったし友達には感謝しても感謝しきれない気持ちです。

・ギャラリー



自然保護区で出会ったオランウータン。



クチンから車で45分ほどの場所にあるビーチでの夕焼け。



ヒンドゥー教の聖地バトゥ洞窟。
野生の猿がたくさんいるので物を
取られないよう荷物は最小限に。。。



KL の新しいランドマークのサラマリンクブリッジ。

・最後に

まず自分の留学生生活を無事に終えられたことに安堵すると同時に、自分が留学に行きたいと思いを伝えた時からサポートしてくれた家族、留学前や留学中に応援してくれた友人、留学前から留学後まで丁寧なサポートをしていただいた留学生課の職員の方々に感謝の意を表したいです。留学先でも大切な友人、かけがえのない経験を得ることができました。留学前からビザの申請がうまくいかなかったり、留学中には自分がこの留学を通して何を残したいのか、留学が終わった後に少しでも成長していただけるか、目標を見失いそうになって悩んだ時期があったのも事実です。そういった時期にも現地の友達とたくさんコミュニケーションをとってたくさん良い刺激をもらいました。シンポジウムなどの経済に関するイベントに参加して人事の目に留まり国際企業からオファーを勝ち取ってきた友人、国際的に活躍したいとって卒業後オーストラリアに渡航する友人、海外で起業するために他国のビジネススクールに進学する友人、ほんとうにすごい友人たちばかりで圧倒される部分もありましたが良い刺激をたくさんもらえたとし出逢えたことに感謝です。また、この報告書を読んでいる方々の中にはこれから長期留学に行くのが決まっている人、応募をして面接試験を受けようか迷っている人もいると思います。自分にとって新しい環境に飛び込むことに不安は少なからずあると思いますし、自分も実際応募締め切りギリギリまで迷っていた人間です。でもぜひチャレンジしてみてください!!! まず応募するにも GPA や語学検定の要件などが設定されていて全員がこの長期留学に行けるわけではありません。渡航後の不安は行ってしまえば何とかなるのでぜひチャンスをつかんでチャレンジしてほしいと思います。自分自身、不安がある中でも本当にチャレンジして行ってよかったと思いますし、留学をしたことで世界中にかけがえのない友人を得ることができました。

短い報告書でしたが最後まで読んでいただきありがとうございました。もちろん留学中に起こったすべてのことを書けたわけではありませんが少しでもこれから留学を考えている方の参考になれば幸いです。Terima Kasih!!!